

東都歳時記（江戸歳時記）

齋藤月岑編纂。天保九年（一八三八年）。須原屋茂兵衛、須原屋伊八合梓。

「江戸歳時記卷之四冬之部」の「十月」の項に（但し表紙は「東都歳時記^冬 五」とある）

十日○湯嶋天満宮祭禮

別當喜見院 今日^{別當}は當社勸請の日なりといふ九日より賑へること二月十日のことし別當より砥餅となつて餅を砥石のことく四角にたちて神供とし後産子の家々へ配る或云當社地守神戸隱明神なればなりと

○虎の御門外京極家御屋敷金毘羅祭礼其外所々こんひら祭

○矢口村新田明神祭禮^{別當} ○目黒金毘羅社祭禮^{別當}
眞福寺 高幢寺

○池上本門寺會式今日より十三日迄修行^{エシキ}
十二日十三日開扉あり十二日の夜通夜の人多し夜中説法あり十三日十四日には門前箆籠の市立つ當寺は宗祖上人入寂ありし灵跡にして大伽藍なり今日祖師御更衣あり ○浅草源

空寺十夜法會一日に修行

十二日（以下略）

註 「池上本門寺會式」の割注の「更衣」に「コロモ

カへ」とルビ有り。新日本古典籍総合データベース

スの「5 江戸歳時記, 国文研, ヤ 7-20-1〜5,
刊, 天保 9, 5 冊, 半, 国文研蔵, 200005397
書誌詳細 collections 画像」(DOI
10.20730/200005397) © 142' 143 フォト。書
誌 ID200005397。